



ザンバーン通信

女子学生インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと学生生活を送る女子学生たちにインタビュー！進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話しいただきました。将来の目標に向けて前向きに学ぶ姿を見て、「理工系って面白そう!」、「私もやってみたい!」と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

室蘭工業大学を志望した理由

中学高校の時から化学が好きで、理系の大学に進みたいなどは考えていました。高校2年生の時に出身地が室蘭のため幼い頃からなじみのあった室蘭工業大学のオープンキャンパスに参加して、化学生物工学コースの紹介をいろいろ見る中で、単純に面白そうだなと、興味を引かれて志望しました。

室蘭工業大学に入学してみた

入学前に期待していた通りで、講義もそうですが、今は研究室に入って自分のやりたいことを割と好きにやらせてもらっている感じです。大学生活について率直に言うと楽しいです。室蘭工業大学の環境でいうと、まず室蘭は気候的にも地域的にも過ごしやすい場所だなと感じていますし、室蘭工業大学自体も割と校

舎が綺麗で、図書館も新しくなりました。講義ではそれなりに広範囲のことを学ぶことができる点も結構いいと思っています。

今勉強していること

現在、大学院修士1年生で研究している内容は、熱をかけると色が変わる高分子の材料を合成して作っています。具体的には、高分子材料、簡単に言うとプラスチックですが、熱をかけると色が変わる高分子材料と、フィルムを成形する高分子材料を物理的にブレンドすることによって、2つの性質を持ったまま1つのフィルムとして成形するという研究を行っています。これらの高分子材料を混合することや、混合した材料をフィルムとして成形した後に加熱して様々な試験をしたりするところがメインになっています。

この研究の面白いところは、色の変化が鮮明なところです。フィルムを約240℃まで加熱するとオレンジ色だったフィルムが黄色に変わります。さらに270℃程度で黄色から茶色っぽく変化するのですが、この変化が顕著で見ていて面白いです。

この色の変化は不可逆変化、つまり一度加熱して色が変わった後に冷ましても色が元に戻らない、という性質があります。社会に役立つような例としては、工場の機械でこれ以上高温になると危ないという場所に、この高分子をフィルム状にして貼り付けることで、常に監視してい



環境創生工学系専攻
化学生物工学コース1年
高橋 ちはるさん

なくてもフィルムの色変化として熱の履歴を残すことができるのではないかと考えています。

将来の目標

現在就職活動をしています。化学系のメーカーの研究職や開発職を目指していて、大学での研究を活かしてそれが社会に直接貢献できると良いと考えています。実際に社会に貢献しているという実感が欲しいといいますが、社会に役立てられるような研究開発職の技術者になりたいなと思っています。

女子中高生へのメッセージ

個人的には技術者に限らないと思いますが、何においてもコミュニケーション力がやっぱり大事だなと思っています。大学の講義内のグループワークとかもありますが、サークル活動での友人関係なども含めて、そう感じています。



あとは皆さんには、ぜひ視野を広げていただきたいなと思います。

私はこれまで化学に絞ってきたのですが、大学院に入って特に他の分野にも視野を広げることでいろいろ新たに見えてくることが多いなと感じ

ていますので、女子中高生の皆さんは、進学とか勉強、部活動などいろいろあると思いますが、一つのことにとらわれずに視野を広げて本当にいろんなことに挑戦し、手を出してみたら良いのではと思います。



■ 教職員のためのダイバーシティセミナー2025 ■

「ジェンダーレンズで見る大学における多様性—すべての構成員well-beingをめざして」

講師：後藤 弘子 氏（千葉大学 理事・副学長）
日時：令和7年11月14日（金）10：00～11：30
場所：室蘭工業大学 本部棟3階大会議室
対象：全教職員他大学の学生、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員
その他ダイバーシティに関心のある方

令和7年11月14日（金）、教職員のためのダイバーシティセミナー2025を開催しました。

この講演会は本学の教職員を主な対象に、男女共同参画推進の意識啓発を目的として年1回開催しています。

本年度は、講師に千葉大学理事・副学長の後藤弘子氏をお招きし、「ジェンダーレンズで見る大学における多様性—すべての構成員well-beingをめざして」と題して、ジェンダー格差をなくすため、意識を高めてジェンダーの視点で世界を見ることの重要性についてお話いただきました。ジェンダー差別は見えにくく、被害者が声を上げづらい現状があるため、まず気づきとサポートの重要性が指摘されました。また、女性教員が結婚や出産でキャリアを中断しないよう、大学の積極的な支援が必要だとの提案がなされました。

当日は、38名の参加があり、「『多様なレンズの精度をあげ』という言葉が響いた」、「ハラスメントやジェンダー不平等は暴力であるというご指摘に改めて衝撃を受けました」などの意見が寄せられました。

教職員のためのダイバーシティセミナー2025
「ジェンダーレンズで見る大学における多様性—すべての構成員well-beingをめざして」
日時：2025年11月14日（金）10:00～11:30
会場：室蘭工業大学 本部棟3階大会議室
講師：後藤 弘子 氏
千葉大学 理事・副学長
対象：全教職員他大学の学生、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員
その他ダイバーシティに関心のある方



■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第22回 ■

「仕事、学業、家庭のライフワークバランス」

講師：安田 玲子氏（(株)フローリック 技術本部 コンクリート研究所 主任研究員）
日時：令和7年10月16日（木）12：10～12：45
場所：室蘭工業大学教育・研究1号館 C207室

令和7年10月16日（木）に「キャリア形成のためのランチタイムセミナー第22回」を開催しました。講師からは、就職後、研究所に残るため大学で得た知識を特化させ、立場を確立しなければという努力したこと、10か月の産休・育休後は時間配分を大切に、日々変化しているライフワークバランスを考え必死に過ごしていること、就職した時から夢であった博士号を取得するため残り1年半を家庭・職場など周りの協力を得て、奮闘しつづけること等、ご自身の経験を踏まえてお話いただきました。

当日は39名の参加があり、「会社には安田さんの他にも社会人ドクターはいますか？」との質問に「社会人ドクターになった方が2名いて、先輩に相談したりアドバイスもいただけるし、会社のサポートもある」と答えられ、今後のキャリア形成を考える機会となりました。



ダイバーシティ通信 第23号（2026年2月）

国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号 TEL：0143-46-5018 / FAX：0143-46-5032
E-mail：ufr@muroran-it.ac.jp URL：https://u.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/

本誌および本学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援して下さる個人・企業からのご寄付を受け付けております。詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
https://u.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室
Office for Promotion of Gender Equality

女性研究者
支援ユニット
Unit for Female Researchers